

令和 8 年度 歴史総合＋世界史探究 (05コア・02プラス)

試験開始の合図があるまでに、次の注意をよく読んで、間違いのないように受験してください。

1. 試験開始の合図があるまで冊子を開かないでください。
2. この冊子は問題20ページです。別に、マークによる解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ 、記述による解答用紙 $\boxed{\text{記述}}$ 各1枚をセットで配付します。

3. 試験開始の合図があったら、問題のページ数を確認し、解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ ・ $\boxed{\text{記述}}$ をミシン目で折ってていねいに切り離し、すべての解答用紙に受験番号を記入してください。

解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ の受験番号欄は、右を参考に記入してください。

4. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
5. 解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ はすべて HB の黒鉛筆(シャープペンシル可)で記入することになっています。答えを訂正する場合は、プラスチック消しゴムでよく消して、訂正してください。プラスチック消しゴムを忘れた人には貸与します。
6. 解答用紙 $\boxed{\text{記述}}$ は、HB 以外の黒鉛筆(シャープペンシル可)や黒・青の万年筆またはボールペンを使用してもかまいません。
7. 文字ははっきり、ていねいに書いてください。
8. 解答用紙の点数欄には何も記入しないでください。
9. 使用していない解答用紙は机の上に裏返しにしてください。
10. 「歴史総合＋世界史探究」のコア試験の配点は100点、プラス試験の配点は120点です。プラス試験の受験生の得点は、コア試験とプラス試験の配点比率に応じた調整を行います。

なお、各問題には、コア試験の配点のみ記載します。

例 受験番号が
0637のとき

受験番号				
千位	百位	十位	一位	
0	6	3	7	
0	●	0	0	0
1	①	①	①	①
2	②	②	②	②
3	③	③	●	③
4	④	④	④	④
5	⑤	⑤	⑤	⑤
6	⑥	●	⑥	⑥
7	⑦	⑦	⑦	●
8	⑧	⑧	⑧	⑧
9	⑨	⑨	⑨	⑨

05コア・02プラス

良い例	悪い例

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークすること。

受験番号					
	千位	百位	十位	一位	
0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9

I A

	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④
(6)	①	②	③	④
(7)	①	②	③	④
(8)	①	②	③	④
(9)	①	②	③	④
(10)	①	②	③	④

I B

	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④
(6)	①	②	③	④
(7)	①	②	③	④
(8)	①	②	③	④
(9)	①	②	③	④
(10)	①	②	③	④

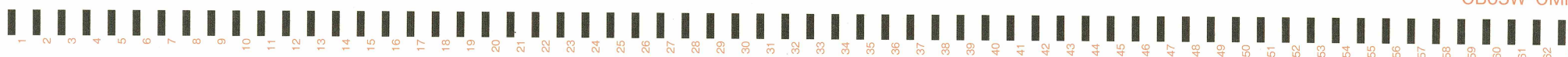
II A

	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④
(6)	①	②	③	④
(7)	①	②	③	④
(8)	①	②	③	④
(9)	①	②	③	④
(10)	①	②	③	④

II B

	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④
(6)	①	②	③	④
(7)	①	②	③	④
(8)	①	②	③	④
(9)	①	②	③	④
(10)	①	②	③	④

CB05W-OMR



Ⅲ

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	

(6)	
(7)	
(8)	
(9)	

総 点	
--------	--

評 点	
--------	--

Ⅳ

	A（誤）	B（正）
1		
2		
3		
4		

	設問
(1)	
(2)	
(3)	
(4)	

評 点	
--------	--

Ⅴ

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	
(6)	
(7)	

(8)	
(9)	
(10)	
(11)	
(12)	
(13)	

評 点	
--------	--

- I 次のA・Bの文章を読み、それぞれ(1)～(10)の設問について〔 〕内の語句から最も適切と思われるものを選び、その記号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙 マーク〕 (20点)

A 中央ユーラシア東部では、前3世紀後半頃から騎馬遊牧民が統合の動きをみせ、モンゴル高原では匈奴が、甘粛からタリム盆地にかけては(1)〔①大月氏 ②烏孫 ③月氏 ④大宛〕が現れた。匈奴は冒頓単于のもと強大化し、東では前漢王朝を破って圧迫を加える一方、西では(1)を攻撃してタリム盆地を支配下におさめた。前漢は匈奴の単于に対して宗室の女性を嫁がせること、および貢納することを余儀なくされていたが、武帝の時代に攻勢に転じた。彼は匈奴に追われた(1)の一部がアフガニスタン方面に建てた国に(2)〔①張騫 ②班超 ③甘英 ④陳勝〕を派遣して匈奴の挟撃を画策した。この誘いは断られたものの、これをきっかけに西域の情報が前漢にもたらされ、武帝はタリム盆地を匈奴から奪うことに成功した。この頃を境に匈奴の勢力は徐々に振るわなくなり、やがて南北に分裂して南匈奴は後漢に服属、北匈奴は西方へと移動してモンゴル高原から姿を消した。一方、南匈奴は中国へと移住し、五胡のひとつに数えられるようになる。

三国時代を経て、西晋時代に皇帝一族の抗争である(3)〔①永嘉 ②六鎮 ③八王 ④呉楚七国〕の乱が起こると、匈奴の劉淵はこれに乗じて自立し「漢」を建国、漢はその後西晋を滅ぼすに至る。劉淵が匈奴でありながら「劉」氏と称し「漢」を建国したことは奇異に感じられるかもしれないが、これは前漢時代の皇帝と匈奴の単于の姻戚関係に基づいている。すなわち、漢が滅びた今、自らが漢を継承する者であるとする立場をアピールする意図が込められているのである。

北匈奴が姿を消して以降、モンゴル高原には(4)〔①鮮卑 ②柔然 ③高車 ④突厥〕が勢力を持った。彼らもまた五胡の一つに数えられ、五胡十六国時代には南下して、中国で自らの国を持つに至り、(4)の中の拓跋氏が建国した北魏はやがて華北の統一に成功する。北魏の君主は中国において皇帝として君臨する一方で、遊牧世界の覇者であることも志向して「可汗」と称し、自らが南下した後にモンゴル高原で勢力を持ち、君主がやはり「可汗」を称していた(5)〔①鮮卑

②柔然 ③高車 ④突厥〕と対抗した。しかし(6)〔①光武帝 ②太武帝 ③孝文帝 ④文帝〕の時代になると北魏は大きく方針転換し、いわゆる「漢化政策」と呼ばれる一連の改革を行い、洛陽へ遷都して中華王朝への脱皮をはかった。こうした政策は人々の反発を招くこととなり、特に(5)の旧都への侵攻に備えるため北方に置かれていた駐屯地の地位の低下は(7)〔①永嘉 ②六鎮 ③八王 ④呉楚七国〕の乱を引き起こし、弱体化した北魏はやがて東西に分裂してしまう。

この頃モンゴル高原では、6世紀半ばに(5)を滅ぼした(8)〔①鮮卑 ②柔然 ③高車 ④突厥〕が勢力をのばしていた。(8)は中央ユーラシアにおよぶ強大な帝国を打ち立て、西ではササン朝ペルシアとともに(9)〔①エフタル ②スキタイ ③ウイグル ④キルギス〕を挟撃して滅ぼす一方、北周・北斉が(8)と関係を結ぶことで自国の優位を獲得しようとするなど、(8)は北朝へも大きな影響力を行使した。しかし、北周から出て中国統一に成功した隋の時代になると、離間策により(8)は東西に分裂し、さらに隋を継いだ唐の時代にはその勢力下に入ることとなった。東(8)はその後復興するが、やがて(10)〔①エフタル ②スキタイ ③ウイグル ④キルギス〕によって滅ぼされた。

B 16世紀から18世紀にかけて、インドシナ半島西部においてはタイとミャンマーという2大強国が覇権を争い、対峙していた。しかし、ともに(1)〔①ヒンドゥー教 ②上座部仏教 ③大乘仏教 ④シク教〕を国家理念にかかげるなど、両国には共通する点も少なくなかった。社会・経済面でも、とりわけ、19世紀後半以降、両国を流れるエーヤワディー河とチャオプラヤ河の両デルタ地帯の開発が進み、世界の穀倉地帯へと変貌を遂げたという点でも同様の経験を持っていた。

14世紀、チャオプラヤ河河口から100キロメートルほど同河を北上し、ロップリー、バーサック両河川との合流点に位置する(2)〔①スコタイ ②シュリーヴィジャヤ ③チャンパー ④アユタヤ〕に(2)朝が成立した。(2)朝は活発な交易活動を展開したことでも知られる。中国に対して朝貢貿易を行い、主に蘇木・香木・鹿皮など森林からとれる特産物を輸出していた。このことは(2)が諸物資の集散地であったことを意味する。17世紀から18世紀初にかけて日本の長崎に来航した唐船の記録には、「暹羅屋形仕出船」の名を冠したものがしばしば登場する。屋形とは国王の意であり、暹羅国王、すなわち(2)王室自身が積極的に交易活動を展開していたことを示している。

確かに(2)からの輸出品目には米も含まれていた。しかし、それらはチャオプラヤ河デルタで生産されたというよりは、「洪水前に米の種を蒔いておけば、水量が増すにつれ苗も生長し、……稲の長さも一丈余になる。」と、1690年に長崎に来航した暹羅船の乗船員が伝えるように、水害に強い浮稲と呼ばれる品種を自然堤防の後背地に広がった氾濫原に粗放に栽培する非集約的な農法によって生産されたものであろうと考えられている。

しかし、繁栄を誇った(2)朝も、1767年には、シンビューシン王率いる(3)〔①アンコール ②パガン ③コンバウン ④タウンゲー〕朝軍の猛攻を受け、滅亡した。これに対し、潮州系華僑の血を引くタークシンがただちに挙兵し、ミャンマー軍の撃退に成功した。タークシンはチャオプラヤ河河口に近いトンブリーに都を築き王位に就いたが、その統治は一代しか続かなかった。代わってタークシン配下の武将(4)〔①チャクリー ②プミボン ③シハヌーク ④ピブン〕がトンブリーの対岸にある(5)〔①サイゴン ②バンコク ③プノンペン ④パレンバン〕に都を築き、ラーマ1世としてラタナコーシン朝を創始した。

同王朝も積極的に対外貿易、とくに中国との間で王室による独占貿易を展開したが、19世紀半ばに入ると、大きな転機を迎えた。1855年、イギリス香港総督(6)〔①アマースト ②バウリング ③クライヴ ④ラッフルズ〕が(5)を訪れ、自由貿易体制への移行を強く求めたのである。時のラーマ4世は自由貿易体制への参入を時代の趨勢と捉え、領事裁判権の容認、関税自主権の欠如といった条項を含む典型的な不平等条約であったにもかかわらず、イギリス・シヤム友好通商条約、いわゆる(6)条約の締結に同意した。この条約によって米の輸出は自由化され、増大する海外米市場の需要とともに新田開発が急ピッチで進められ、輸出も急速に拡大していった。

タイとは対照的な運命をたどったのがミャンマーである。(3)朝はエーヤワディー河流域に居住する(7)〔①クメール ②モン ③チャム ④サカ〕人を征服し、その領域に編入した。しかし、同河流域の米の生産は必ずしも順調には発展しなかった。その原因の一つは(3)朝がとった厳格な米輸出禁止政策であった。イギリスは、1852年、第2次イギリス＝ミャンマー戦争を通じてこの「下ビルマ」を獲得したが、エーヤワディー河デルタの開発はむしろ英領時代に盛んとなった。

イギリスは(3)朝第10代国王(8)〔①ミンドン ②チュラロンコン ③アラウンパヤー ④スカルノ〕と協定を結び、「上ビルマ」からの人の移動を認めさせ、また、インドでの経験にならい、実際の耕作者に土地所有権を認め地税を徴収する(9)〔①ザミンダーリー ②ライヤットワーリー ③イクター ④ミッレット〕制を導入したことも農民の新田開発を促す契機となった。こうしてわずか半世紀の間に、エーヤワディー河デルタにおいて水田面積は、1850年代の30万ヘクタールから一挙に240万ヘクタールへと急増した。1885年、イギリスは、英系企業への課税問題を契機にミャンマーの保護国化を要求し、それが拒絶されると王都マンダレーを攻略しミャンマー全土を植民地化した。イギリスはミャンマーを統治するにあたってインド帝国ビルマ州を成立させるとともに、その州都をエーヤワディー河河口のヤンゴンに置き、デルタの開発を一層積極的に進めた。

20世紀に入ると、同河デルタ地帯においては、入植可能な土地はほとんど消滅し、かつ中小土地所有者の没落と大土地所有化が進んだ。加えて、1929年に起

こった大恐慌は米価を下落させ、多くの負債を抱え込んだエーヤワディー河デルタの農民を襲ったのである。(10)〔①アウン＝サン ②スカルノ ③サヤ＝サン ④リサール〕が「ビルマ王」を称し蜂起を呼びかけたのは、1930年の12月のことであった。当初、(10)は、(3)朝の勃興した「上ビルマ」で蜂起を呼びかけたが応ずる者はなかった。これに対し、「下ビルマ」では熱狂的な支持者を獲得したという。このようにエーヤワディー河デルタの開発はミャンマーの農村社会を大きく変貌させていったのである。

Ⅱ 次のA・Bの文章を読み、それぞれ(1)～(10)の設問について〔 〕内の語句から最も適切と思われるものを選び、その記号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙マーク〕(20点)

A イギリスの人類学者トム＝ハリスンらが1937年に創始した世論調査機関「マス・オブザベーション」はアンケートへの回答を定期的に協力者に依頼することを通じて、日常生活のさまざまな観点から一般市民を捉えようとしてきた。例えば、1945年8月の調査票には、ドイツ戦後処理を含むヨーロッパの平和に関してや、総選挙で勝利して首相となった(1)〔①チャーチル ②イーデン ③アトリー ④マクミラン〕の労働党政権に関して、一連の質問が掲載されており、アンケート回答者は自分の意見や経験だけでなく、感情についても詳しく記述することが求められていた。

これらの世論調査アンケート回答を分析した歴史研究の中には人々の感情を分析しているものもあり、例えば、この1945年8月の調査票でいえば、その冒頭で「原爆について、あなた自身の感情や見解、そしてあなたが出会った人々の感情や見解を詳細に記述せよ」と求めた最初の質問項目に注目したりしている。アメリカ軍による1945年4月の(2)〔①沖縄本島 ②硫黄島 ③サイパン島 ④レイテ島〕上陸に続き、8月の広島と長崎への原爆投下に関する質問は、アンケート回答者の心に様々な感情を呼び起こした。また、回答者らは新たな「原子力時代」に入ったと感じていたようであった。アメリカ合衆国による原爆の使用は、イギリスの市民の過去、現在、そして未来に対する理解に大きな影響を与えたのではないかとみられる。

アンケート回答者は、日常の国内生活における直接的な関心事だけでなく、世界情勢に対する感情の記述も定期的に求められた。1945年以前にも、例えば、イギリスの東南アジアにおける拠点であった(3)〔①プノンペン ②サイゴン ③シンガポール ④マニラ〕陥落を背景に、大英帝国に対する「現在の感情」について、「戦争が始まってからどう変化したか?」と問われたり、あるいは、日本の支援で(4)〔①チャンドラ＝ボース ②ジンナー ③アンベードカル ④ネルー〕が組織した自由インド仮政府について(1943年5月調査票)、またその後

降伏間際に無差別爆撃で約2万5千人の死者を出しイギリス国内でも批判の声が起こった(5)〔①ドレスデン ②ヴィシー ③ゲルニカ ④ダンツィヒ〕大空襲に先駆けて、イギリス軍のアーサー＝ハリスが率いて約4万人の犠牲者を出していたハンブルク空襲などのドイツ爆撃について(1943年12月調査票)、そして戦後に(6)〔①マーシャル ②モンロー ③ニクソン ④トルーマン〕＝ドクトリンによって共産主義化阻止を図られることとなる、当時のギリシアにおける情勢について(1944年12月～1945年1月調査票)、自らの感情を概観することを求められたりした。

回答者らは、感情を書き記す際に自らの感情を再評価したり、時間の経過とともに自分の感情がどう変化したかを振り返ったりしている。150万人以上が虐殺されたといわれる(7)〔①アウシュヴィッツ ②レジスタンス ③ベッサラビア ④スターリングラード〕収容所の解放を経て、ドイツ無条件降伏により戦争が終結した1945年5～6月の調査票には、「ヨーロッパで戦争が終わった今、あなたはどのように感じているか?そして、あなたが感じるだろうと予想していたものと比べると、どう違うか?」という質問があった。回答者らは、恐怖であったり、喜びや哀れみであったり、自分の感情がどう変化したかを記録した。回答者の感情は複雑で、「驚き、期待、恐れがすべて、自然にわいてくる感情の中で混ざり合っている」と述べたり、「混乱した状態に気づくことは感情面から考えるための良い出発点だ。…感情はしばしば私たちに襲い掛かり、私たちを驚かせ、警戒心を抱かせ、当惑させる」と述べたりしている。

小説家H.G.ウェルズが予見した「悪夢」のようだという表現もみられ、「我々は意志に反してウェルズの描く未来へと引きずり込まれている」と心配する回答もみられる。ウェルズは、改良主義的な社会主義団体であるフェビアン協会の結成に参加した(8)〔①バブーフ ②コブデン ③ウェップ夫妻 ④ブルードン〕と懇意であったイギリスの数学者・哲学者(9)〔①ジョージ＝オーウェル ②バートランド＝ラッセル ③バーナード＝ショー ④ジョン＝メイナード＝ケインズ〕と同様に反戦主義を掲げていた人物である。

アンケート回答の感情面を分析した研究では、科学者と非科学的なものの見方をする回答者との間の違いのほかに、回答者の性別、職業、宗教もまた、感情の

違いを生む要素であったと分析している。ある女性は、「将来の戦争はどんなに恐ろしいものになるだろうか。すべての国々が二度と戦争を起こさないと決意してくれることを切に願う。おそらく、女性がもっと力を持つようになれば、幸せな未来が実現するだろう」と書き、またある主婦は、「女性、つまり普通の女性は、命を生み出す存在であり、破壊者ではない。現代世界で不可欠だとしても、いかなる爆弾も女性である自分には受け入れられない」と述べ、どちらも女性性と平和主義をつなぐ連想をしている。このような連想は、1950年代後半に(9)が核兵器廃絶を訴えて盛り上げた核軍縮キャンペーンのデモ行進の際にもみられたが、1980年代に核巡航ミサイルがイギリスの空軍基地に配備されたことに反対したグリーンナムコモン女性平和キャンプでは特に強調されていた。その後、1987年のアメリカとソ連の首脳会議で締結された(10)〔①包括的核実験禁止条約(CTBT) ②第1次戦略兵器削減条約(START I) ③第2次戦略兵器削減条約(START II) ④中距離核戦力(INF)全廃条約〕の結果、この基地からこれらのミサイルは撤去されている。

B 1976年10月、当時の中華人民共和国の首相であった(1)〔①毛沢東 ②華国鋒 ③林彪 ④周恩来〕は、プロレタリア文化大革命を主導してきた「(2)〔①変法派 ②走資派 ③四人組 ④紅衛兵〕」を逮捕し、それにより1977年には文化大革命の終了が宣言された。その後復権を果たし、中国の現代史に多大な影響を与えたのは、鄧小平であった。

1978年、鄧小平政権は中国経済の発展をはかる改革開放政策を打ち出し、以後、経済特区の整備や人民公社の解体などを進めた。これらの改革は、すでに中国で提起されていた「(3)〔①大躍進 ②文化政治 ③四つの現代化 ④三民主義〕」を最終的には鄧小平が実行に移したものと言える。なお、近年の研究は、改革開放に類する政策は1978年以前から始まっていたことや、「改革開放」という言葉がさかんに使われるようになるのが1987年であったことなどを指摘しており、改革開放の開始を1978年とする見方に再考を迫っている。

鄧小平政権の時代には、対外関係でもいくつかの進展を見ている。例えば香港をめぐるイギリスとの関係である。イギリスは、1842年に香港島を、1860年には(4)〔①遼東半島 ②山東半島 ③澎湖諸島 ④九竜半島〕先端部を清に割譲させ、1898年には(4)の残り全域を租借していた。その香港の返還をめぐって、鄧小平とイギリス首相の(5)〔①チャーチル ②サッチャー ③レーガン ④ニクソン〕との間で交渉が持たれた。(5)は新自由主義政策の旗手として知られた人物である。この交渉の結果、(6)〔①1989年 ②1997年 ③2000年 ④2008年〕に香港が中国に返還されることが約束された。

また、1950年代後半のソ連の(7)〔①フルシチョフ ②レーニン ③スターリン ④トロツキー〕との路線対立に端を発する中ソ対立についても、鄧小平は、1985年にソ連の新たな指導者となった(8)〔①ブレジネフ ②ゴルバチョフ ③ドブチェク ④エリツィン〕と会談を行い、両国関係の正常化を実現させた。

鄧小平政権下で改革開放政策を担った主要な政治家には胡耀邦がいるが、政策の進展とともに、学生や知識人の間で民主化の要求が強まり、胡耀邦自身も政治改革に着手していた。これに対し鄧小平は、改革開放政策を推し進めつつも、あくまで中国共産党の一党支配のもとでの社会主義体制堅持を望み、1987年には胡耀邦を辞任に追い込んだ。また同じく鄧小平政権下の主要な政治家であった趙紫

令和8年度 入試問題訂正票

国際文化交流 学部 コア試験

国際文化交流 学部 プラス試験

法・経済・文・理・国際社会科学 学部 コア試験

法・経済・文・理・国際社会科学 学部 プラス試験

科目 歴史総合＋世界史探究 の試験問題について、訂正があります。

記

<u>9</u> ページ <u>16</u> 行目	
誤	正
<u>残り全域を</u>	<u>残り全域と周辺の島々を</u>

陽も、(8)による(9)〔①デタント ②ドイモイ ③インティファダ ④ペレストロイカ〕の影響を受け、政治改革を行おうとした。胡耀邦の死などを契機に、学生や知識人の民主化要求が高揚していたが、そうした要求を鄧小平が武力で弾圧した天安門事件がおこると、民主化に理解を示した趙紫陽も解任されることとなった。

天安門事件に対する国際的な非難が強まる中、改革開放政策は苦境に陥るが、鄧小平はそれを挽回するため、経済特区を歴訪して改革開放政策の重要性を説く講話を行った。この講話は「南巡講話」と呼ばれる。鄧小平は1997年に死去するが、趙紫陽に代わって中国共産党総書記となっていた(10)〔①胡錦濤 ②江沢民 ③劉少奇 ④江青〕らはその後も鄧小平の路線を継承し、発展させていくこととなった。

Ⅲ 次の文章を読み、(1)～(9)の設問に答えなさい。〔解答用紙記述〕(18点)

(1) であったカエサルは、遺言でオクタウィアヌスを養子とした。オクタウィアヌスは、前31年9月2日に、エジプトの女王クレオパトラとカエサルの旧部下の (2) の連合軍をギリシアの北西部のアクティウムの海戦で破り、翌前30年8月1日にエジプトの首都アレクサンドリアを陥落させて、(2)を自殺に追い込んだ。この勝利の結果、オクタウィアヌスは、事実上の地中海世界の単独支配者となった。ローマに帰還したオクタウィアヌスは、前27年1月13日に国政(レス・プブリカ)を元老院とローマ市民たちに返還することを提案し、その結果、オクタウィアヌスと元老院がイタリア外の帝国の諸属州を分担することとなった。元老院は、オクタウィアヌスの「功績」を讃えて、1月16日にアウグストゥスの添え名を授けることとした。この一連の出来事が、ローマの前期帝政(元首政)の始まりとされる。

元首政成立から、2世紀後半の180年ごろまでは、帝国各地にローマ風の都市が建設されて、ラテン語やローマ式生活様式も普及し、ローマ帝国の全盛期とされる。この時代には、ネロ帝没後の帝位をめぐる短い内乱と、2回にわたるユダヤの反乱鎮圧など以外には、ローマ帝国内での本格的な戦争はなく安定した繁栄の時代であった。ただし、ローマの対外戦争は継続しており、東方ではパルティア、北方のライン川の辺境ではゲルマン諸部族との戦争が断続的に行われていた。

かつては、96年から180年までの時代を (4) 時代と呼び、皇帝と元老院が協調して安定した政治が行われた時代とされてきた。さらに、この時代の皇帝たちは血縁関係ではなく、前途有望な若者を元老院議員階層の中から選んで後継者とする「養子皇帝制」をとっていたと主張されていた。しかしながら、近年では、この時代の6世代の皇帝たちを「ネルヴァ・アントニヌス朝」と呼び、たまたま実子の後継がない皇帝が続いただけであり、後継者の多くは、遠縁だが血縁の男子から選ばれていたとされる。

この時代の1人目のネルヴァ帝は高齢の古参元老院議員であり、有能な軍人であったトラヤヌスを養子とし、帝位を継がせた。2人目のトラヤヌス帝は、ドナウ河下流の北側に居住していた (5) 人の王国を攻め滅ぼして属州を新設した。

さらにトラヤヌスは東方のパルティアとの戦争を開始し、自ら軍を率いてメソポタミアに侵入してパルティアの首都 (6) を占領した。トラヤヌス帝は、さらにペルシア湾頭まで進軍して、新たにアルメニア・アッシリア・メソポタミアの三つの属州を新設した。これらの属州は、跡を継いだ3人目のハドリアヌス帝が放棄し、ローマとパルティアの国境はユーフラテス川となった。ハドリアヌス帝は、むしろ内政に力を注ぎ、帝国内の多くの属州を巡行し、属州 (7) では、北方の現在のスコットランドとの境界に「ハドリアヌスの防壁」を築くなど、帝国の安定と防備の強化に努めたことが知られる。ハドリアヌス帝の跡を継いだ4人目のアントニヌス＝ピウス帝は、20年以上の治世（138年～161年）の間、イタリアを離れることがなく、その間に大規模な軍事行動が行われることはなかったとされる。5人目の皇帝であるマルクス＝アウレリウス＝アントニヌス帝は、「哲人皇帝」としても知られている。彼の治世の前半では東方のパルティアとの戦争において優位に戦いを進めたが、戦後に東方から伝わった伝染病の流行で多くの死亡者が出た。治世後半には北方のゲルマン人諸部族との戦争が激化し、皇帝自らが北方の辺境に出陣することとなった。180年、皇帝はドナウ川沿いの辺境の地で死去した。死亡時には、5人の皇帝たちの中で、初めて実の息子のコンモドゥスが存在していた。彼は177年からは父帝の共同統治帝となっていたが、父の死後に18歳でローマ帝国の単独支配者となった。コンモドゥスの統治は、治世の最後まで民衆や兵士たちには好意を持たれていたが、次第に元老院との対立を深めることとなり、自らの護衛隊とも不仲となり、192年に暗殺された。

コンモドゥスの暗殺後の193年には、皇帝の護衛隊が2人の皇帝を相次いで擁立しながら、自分たちの手で殺害した。このような首都ローマの混乱を受けて、3人の属州総督が帝位をめぐって争い、最終的にドナウ川中流の属州上パンノニアの総督であったセプティミウス＝セウエルスが勝ち抜いて、皇帝となった。彼の跡は、血縁者4名が次々に帝位を継承したためセウエルス朝と呼ばれる。セウエルス朝の2代目の皇帝は、212年にローマ市民のみが負担する税を帝国の住民全員から徴収するためローマ帝国の自由人のほぼ全員にローマ市民権を与えたことで知られている。その後、235年にセウエルス朝最後の皇帝が、軍隊の反乱で殺害され、この時点で、ローマの前期帝政、元首政が終わったとされる。

〔設問〕

(1) 空欄 (1) には、共和政ローマが危機に陥った際に1名だけ任命され、国家の全権を掌握する特別な公職の名称が入る。この職の任期は、本来は6ヶ月に限定されていたが、カエサルは自らの職の任期を終身としていた。この職の名称をカタカナで答えなさい。

(2) 空欄 (2) には、カエサルの旧部下であり、カエサルの暗殺後にオクタウィアヌスとレピドゥスと共に第2回三頭政治を結成した人物の名前が入る。この人物の名前を答えなさい。

(3) 下線部(3)は、前27年から後180年までのローマ帝国の全盛期とされる時期についての説明である。ローマ帝国のこの全盛期は、どのように呼ばれているのか。その時代の呼称を答えなさい。

(4) 空欄 (4) には、96年から180年までの間、元老院と協調しつつ、ローマ帝国の対外関係での優位や内政の安定に貢献したとされていた皇帝たちのことを指す名称が入る。この名称を答えなさい。

(5) 空欄 (5) には、現在のルーマニアの地に古くから居住して、共和政末期のカエサル時代と元首政期の1世紀後半から2世紀初め頃に強大な王国を築いて、ローマにとって脅威となった民族の名称が入る。この名称を答えなさい。

(6) 空欄 (6) には、イラン系遊牧民のパルティアがメソポタミアを支配下に入れた際に、メソポタミア中部のティグリス川河畔に建設した都市であり、後3世紀にパルティアに代わってメソポタミアを支配したササン朝の首都でもあった都市の名称が入る。この名称を答えなさい。

- (7) 空欄 (7) には、共和政末期の前1世紀に、属州ガリアの総督時代のカエサルが2回にわたって遠征し、元首政期の1世紀半ばに第4代皇帝クラウディウスが、征服して属州とした地域の名称が入る。この名称を答えなさい。

- (8) 下線部(8)の皇帝は、ストア派哲学の説く禁欲主義に傾倒して、マルコマンニ戦争などの戦陣にて、哲学書を執筆した。その書物の題名を答えなさい。

- (9) 下線部(9)で述べたようにローマ帝国のほぼ全自由人にローマ市民権を与えた皇帝は、通常はガリア人の外套を指すあだ名で呼ばれている。このあだ名を答えなさい。

Ⅳ 以下の各文章1～4にはそれぞれ明白な誤りが一つずつ含まれている。誤りの語句を解答用紙の所定のA欄に、それに替わるべき正しい語句をB欄に記入しなさい。また各文章1～4に付された設問(1)～(4)の答えを解答用紙の所定の欄に記入しなさい。〔解答用紙〔記述〕〕(16点)

1. 古代ギリシアには、『イリアス』や『オデュッセイア』で知られるホメロス、『神統記』や『労働と日々』で知られるヘシオドス、アテネの三大悲劇詩人、『女の平和』や『女の議会』やソクラテスを風刺した『雲』で知られる喜劇詩人アリストファネスの他にも、すぐれた詩人たちはいた。レスボス島の叙情詩人サッフォーや、オリンピアの競技会における勝利者への祝勝歌などが多く残っているピンダロスなどである。

設問(1) 三大悲劇詩人に数えられ、『アガメムノン』という代表作で知られ、マラトンやサラミスでの戦いにも従軍した人物の名前を答えなさい。

2. 481年にフランク王に即位してメロヴィング朝を開いたクローヴィスは、ガリア北部から中部に勢力を拡大する一方で、東ゴート王国のテオドリック大王との婚姻政略で地歩を固めた。彼は、王妃クロティルドの影響によってアタナシウス派に改宗したが、これは、異端とされるアリウス派を信奉する他のゲルマン諸国との戦争を聖戦として正当化し、かつ、ガリアに住むローマ貴族たちの支持を得るのに役立った。ローマ教会にとっても彼の改宗は、首位権を争うコンスタンティノーブル教会への優位を築くために、意義のあるものだった。彼はその後も、南ガリアのトゥールーズを都にしていたブルグンド王国を破ってイベリア半島に追いやるなど、領土の拡大を続けた。晩年には、東ローマ帝国皇帝からその支配を認められ、コンスルの称号を受けた。

設問(2) ローマ教会では6世紀、ベネディクトゥスが修道院を開き、清貧・純潔・服従を理念とする戒律(会則)を定めた。彼の修道会で生活上の標語とされた言葉を、答えなさい。

3. イタリアの映画監督ヴィスコンティの作品『ルートヴィヒ』は、バイエルン王ルートヴィヒ2世の生涯を描く。ヴァーグナーに心酔し、バイロイト祝祭劇場を建造したことで知られる王である。彼が即位した時代、北のプロイセン王国では宰相ビスマルクが辣腕を振るい、東のオーストリア帝国はチェコやハンガリーを含む広大な版図を誇っていた。両国がシュレスヴィヒ、ホルシュタイン地方の領有をめぐる激突した普墺戦争で、バイエルンはオーストリア方について敗北するが、賠償金と僅かな領土の割譲を課されるにとどまった。戦後にプロイセンがオーストリアを排除して結成したドイツ関税同盟にバイエルンは加わらなかった。普仏戦争ではプロイセン側について戦ったが、プロイセン王ヴィルヘルム1世がヴェルサイユ宮殿で皇帝に推挙されてドイツ帝国が誕生した際、ルートヴィヒは式典に自らは出席しなかったという。この頃から彼には国庫の濫費や異常な言動が目立つようになった。1886年、ついに政府によって拘禁され、その翌日に水死体となって発見された。

設問(3) ドイツ帝国成立後にバイエルンやプロイセン東部などの地域で行われた、カトリック教会を「帝国の敵」と見做して抑圧し統制しようとする政策は何と呼ばれるか、その名称を答えなさい。

4. 仏教が中国にいつ伝来したかについては諸説あり、1世紀の後漢の明帝の時、当時の都の洛陽近郊に建立されたという白馬寺にまつわるエピソードはその著名なものの一つである。五胡十六国の時期には西域から仏図澄や鳩摩羅什などの僧侶が訪れ、特に後者は多くの仏教經典を漢訳したことで知られる。また中国の南方でも、唐の杜牧の「江南春」に「南朝四百八十寺」という句があることからもうかがえるように仏教が盛んで、南朝の梁の武帝は、特にその治世の後半において仏教に深く帰依した。唐代においても仏教は引き続き勢力を保ち、玄奘や義浄のようにインドに向い、ナーランダー僧院などを訪れ、サンスクリット語の仏典を持ち帰った僧もあらわれた。なお、前者は西域経由のルートを取り、『大唐西域記』を著し、後者は海路により、『仏国記』を著している。

設問(4) 仏教の普及に刺激を受け、中国古来の神仙思想や道家の学説などを取り入れて道教を体系化して新天師道を興し、教団を組織した北魏時代の人物は誰か、人名を答えなさい。

V 次の文章は、古川安『科学の社会史』（2018年発行、265～266ページ、286～287ページ）を一部抜粋したものである（中略した箇所を「・・・」で示す）。この文章を読んで下記の設問(1)～(3)に答えなさい。〔解答用紙記述〕（26点）

20世紀前半に起きた二つの世界大戦は、戦争史上はじめて大規模に科学者と科学を巻き込んだ。そこでは、科学は物質の供給に寄与したばかりでなく、科学者が新兵器の開発に従事し、その成果が戦場の前線に持ち込まれた。第一次世界大戦⁽¹⁾（1914-18）では、ドイツと連合国の双方で科学者が毒ガス開発に従事したこと、そして第二次世界大戦⁽²⁾（1939-45）では、米国のマンハッタン計画に大量の物理学者が動員され原子爆弾を開発したことは特に有名である。前者が「化学者の戦争」、後者が「物理学者の戦争」という異名をとるゆえんである。世界大戦を通して科学は、軍事というもう一つの分野における技術的かつ社会的有効性を発揮し、国家とのつながりをさらに強めた。

「・・・」

科学に携わる者が、軍事技術に何らかの形で関与したケースは、もちろん古くからある。古代では (3) がローマ軍のシラクサ攻撃に対して考案したカタパルト（投石器）の伝説を思い浮かべる人もあろう。ルネサンス期のイタリアの数学者タルターリャらは、弾道学や築城術など軍事的色彩の強い仕事を残している。また17世紀のロンドン王立協会の会員が行ったとみられる研究の1割近くは軍事技術と関係したものであったし、(4) のフランスでは王立科学アカデミーのラヴォアジエが火薬製造技術に携わっていた。19世紀中葉、イギリスでは対ロシアの (5) のさなかに、(6) が軍事技術の助言を求められたことが知られている。

近代的技術を戦争に導入する近代戦のパターンは、すでに1861-65年のアメリカの南北戦争に萌芽している。そこでは、装甲軍艦や潜水艦や魚雷が初めて登場し、気球や鉄道や電信が活用され、負傷者の介護には麻酔技術も取り入れられた。戦争のさなかの1863年にリンカン大統領⁽⁷⁾のもとに、連邦政府の正式の科学諮問機関として国家科学アカデミーが組織されたのも、こうした状況からであった。国家的レベルの科学アカデミーの設立は平時からアメリカの科学者たちが切望していたもので

あり、彼らはこの機に乗じてそれを実現させることに成功したのである。

[・・・]

核分裂がヒトラー政権下のドイツで発見されたことは、ドイツを追われたユダヤ系科学者たちにとって大きな脅威であった。実際、1939年3月にドイツはチェコスロバキアのウラン鉱山を接収した。同年8月、アメリカに亡命していたユダヤ人物理学者 (9) は、同じく亡命中のハンガリー人物理学者シラードとウィグナーから、ナチス・ドイツが最新の研究成果からウランによる新型爆弾を作る危険性があることに注意を促すルーズベルト大統領宛の手紙に署名を求められた。(9) 自身は、もともと政治に深入りすることを好まなかったが、世界の科学界を揺るがせた相対性理論⁽¹¹⁾の発見者として、自分の科学者としての権威が社会的に大きな力を持つことをよく承知していた。この一通の手紙が、アメリカの原爆製造計画への政策決定を直接左右したわけではなかったにせよ、それはウラン委員会発足の契機になるなど、一つの伏線になったことはたしかである。この手紙が書かれた翌月、ドイツは (12) に侵攻し、第二次世界大戦が勃発した。原爆製造はドイツ・イギリス・アメリカ・ソビエト・日本で企てられたが、実際にはアメリカ以外ほとんど進展しないまま終戦を迎えた。⁽¹³⁾

〔設問〕

(1) 下線部(1)は、1914年にオーストリア帝位継承者夫妻がボスニアの州都で、セルビア人の民族主義者に暗殺されたことから勃発した。州都の名称を答えなさい。

(2) 下線部(2)に関連して、1944年米英連合軍による北フランス上陸作戦によってドイツへの反攻が開始された。上陸した土地の地名を答えなさい。

(3) 空欄 (3) には、浮力の原理や艇の原理を発見した数学・物理学者の名前が入る。その人物の名前をカタカナで答えなさい。

- (4) 空欄 (4) には、主としてフランス革命前までの絶対王政下のフランス政治・社会体制を革命側から評した言葉が入る。体制の名称をカタカナで答えなさい。
- (5) 空欄 (5) には、ロシアがオスマン帝国内のギリシア正教徒保護を口実としてオスマン帝国と開始した戦争の名称が入る。この名称を答えなさい。
- (6) 空欄 (6) には、電磁誘導や電気分解に関する法則を発見して電磁気学の基礎を築いたイギリスの物理学者の名前が入る。この人物の名前を答えなさい。
- (7) 下線部(7)の人物は、1863年に奴隷解放宣言を出して、南北戦争を北部の勝利に導いた。南北戦争における最大の激戦が行われたペンシルヴェニア州南部の村の名称を答えなさい。
- (8) 下線部(8)の人物と同時代のイタリアの政治家で、ファシスト党を結成して独裁権力をふるった人物の名前を答えなさい。
- (9) 空欄 (9) に入る適切な人物の名前を答えなさい。
- (10) 下線部 (10) の人物は、大恐慌に対して、強力な指導力で景気回復のための改革に取り組んだ。恐慌対策として実施した政策の総称を答えなさい。
- (11) 下線部 (11) に関連して、原子内部の非常に小さいスケールで、対象物の状態を粒子の性格と波動的性格によって規定する物理理論の名称を答えなさい。
- (12) 空欄 (12) に入る適切な国の名称を答えなさい。
- (13) 下線部 (13) に関連して、1945年7月、米・英・中の3国が発表した日本に対する降伏勧告宣言の名称を答えなさい。